



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2020

11月27日号

179
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒960-8157 福島市蓬萊町七丁目13番5号 TEL/FAX 024(529)7238

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

ニューノーマル



会長 新里 昌一

2019年暮れCOVID-19が中国武漢で発生しました。その後に全世界に猛烈な勢いで感染を広げて、多くの感染者や死者を出しました。緊急事態宣言や外出規制等、今までの生活も大きく様変わりしました。医療もこの感染症との戦いを余儀なくされました。感染のリスクを背負い、患者を救う道の模索が続きました。放射線技師もポータブル撮影やCT検査で、その最前線に立たされました。その割には、首相や県知事からは放射線技師の言葉が無く残念でした。

一時的に取まっても、これからはインフルエンザのような存在になりそうです。100年前のスペイン風邪は3年経過して収束したそうです。現代化学では、ワクチンや特效薬が出来るのはもう少し早いとも期待しています。ただ今後は、元の生活に全ては戻りません。

人や企業、そして国等が営みを続ける上で新たな前提条件が必要です。在宅勤務やテレワーク・Web会議等の新しい生活様式を身につける必要があります。技師の仕事は、病院に出勤しないと出来ない仕事で在宅勤務は出来ません。ただ、学会や研究会等のイベントは行えず、Web配信等が進んで来ました。

半年前には想像もしなかった、ニューノーマル(新しい常識)の取り組みが進んでいます。県技師会でもニューノーマルを取り入れて行きたいと思います。社会全体で、パラダイムシフトが必要な時代になったと思います。

TCRT2020(第10回)の企画プログラム委員会もWebでの会議を開催しました。残念ながら今年度の開催は中止とし、来年度TCRT2021(第11回)として開催する事にしました。開催方法も、Web開催を含めたハイブリッド開催等を模索して行きます。

県理事会でも補助的にWeb会議を開催しています。今までは、年5-6回の理事会には車での移動を行っていました。Web会議では時間的・旅費的にも負担が減らす事が出来ます。直接会って話す事は大事ですが仕方ありません。

還暦を過ぎた自分には、敷居が高いと思いましたが何とか使えるようです。電磁的(メール)承認の補助として、理事の顔を見て相談・検討して行きたいと考えます。各グループで色々使えるように法人として有料版の購入を行います。

今までは当たり前のように、毎週末はほとんど出張という生活で時間的余裕もなく過ごして来ました。今回は、今後のイベントの在り方を考えるチャンスかも知れません。ニューノーマルを取り入れて、新しい技師会活動を模索して行きたいと考えます。それには、会員・賛助会員のご協力が不可欠になります。宜しくお願いいたします。

福島県立医科大学 新医療系学部だより

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 久保 均

皆さま、こんにちは。新型コロナウイルス感染についてはなかなか収まらない状況で、先生方も大変な状態が続いていると思います。どうぞ、時々には息抜きをしながら粛々と対応してください。

前は、田代助教に海外での研修について執筆していただきました。研修の場合はコミュニケーションが発生しますので、なかなかハードルが高いですね。その様子がよくわかったと思います。今回は、山尾助手に海外での経験を執筆していただきます。では、山尾先生よろしくお祈りします。

SNMMI 2019 参加記

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 山尾 天翔

これまでの「福島県立医科大学新医療系学部だより」では、他の先生から海外留学の体験や国際学会の参加記、海外での研修についてお話しいただきました。今回は、私が昨年に参加した、自身初となる国際学会の経験についてお話しさせていただきます。

私は、2019年6月22日から25日の4日間にわたり、アメリカ合衆国カリフォルニア州アナハイムで開催されたSociety of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2019 Annual Meetingに参加いたしました。SNMMI Annual Meetingは毎年6月にアメリカ、カナダの持ち回りで開催される核医学分野の中で世界最大規模の国際学会です。2019年はアナハイムコンベンションセンターで開催され(写真1)、世界中の医師や薬剤師、診療放射線技師など様々な専門家が集まります。



写真1：学会会場

私は1題をエントリーし、ポスター発表として採択されました。SNMMI Annual Meetingでは、演題登録に\$40の費用がかかります。それまで私は、演題登録に費用がかかる学会に参加したことがなかったため、学会に参加する前から国際学会の洗礼に驚いたことを覚えています。日本(羽田空港)からアナハイム(ロサンゼルス国際空港)までのフライト時間はおよそ10時間で、直行便で行くことができます。私は21日の夜中の便で出発し、現地には同日午後5時(現地時間)に到着しました。日本とアナハイムとは16時間の時差がありますが、到着した当日は、夕食後、すぐにホテルで休憩をとったため、幸いにも時差ボケを実感することなく、学会に臨むことが出来ました。SNMMI Annual Meetingは事前参加登録(学会開催の2ヶ月前までに登録)することで、現地での登録よりも\$100以上安くなり、登録手続きもスムーズに進みます。現地では設置されているPCを用いての登録でした。ポスター発表は、指定の時間中に自身のポスター前で待機するという形式でした。私の指定日時は学会最終日の午後ということもあってか、会場にはあまり人は多くありませんでしたが、数名の方から質問を受けました。お世辞にも上手いとは言えない私の英語でも、真摯に聞いてくださりなんとか対応することが出来ました。教育講演や口頭発表は、脳神経や腫瘍分野を中

心に聴講しました。発表内容を聞き取ることに精一杯でしたが、中には日本の発表者の姿もあり、私もいつか口頭発表に挑戦してみたいという気持ちが触発されました。



写真2：会場風景（左：閉会式、右：ポスター会場）

ご存知の方も多いかと思いますが、アナハイムには世界初のディズニーパークがあります。学会中にスターウォーズの新しいエリアがオープンになったらしく、非常に多くの来園者がいました。ディズニーパークは学会会場の徒歩圏内にあり、学会2日目のディナーイベントは、パーク内で開催されました。花火の打ち上げで盛り上がる中、美味しいお料理を堪能しつつ、貴重な機会だったので、積極的に海外の参加者と意見交換しました（写真3）。また、学会3日目には、アナハイムにあるホテルの会場にてイブニングセミナーもあり、心臓核医学の定量や最新のPET装置に関する内容について学ぶことが出来ました。



写真3：ディナーイベント

初めての国際学会の参加は不安もありましたが、多くの方のご支援をいただきながら無事に終えることが出来ました。今年のSNMMI 2020 Annual Meetingは、ルイジアナ州のニューオーリンズで開催される予定でしたが、COVID-19の影響で多くの学会が開催延期やウェブ開催の形式を取っているように、SNMMI 2020もウェブでの開催となりました。ウェブ開催は、インターネット環境さえあればどこからでも参加できるメリットはありますが、学会ならではの生の意見交換ができないことは寂しくもあります。1日でも早く、状況が改善することを願いつつ、私の参加記を締めさせていただきます。

以上で山尾先生の参加記は終わりますが、ここでビッグニュースをお伝えさせていただきます。新型コロナの影響で審査が遅くなっていた文科省の認可ですが、無事に2020年10月23日にいただくことができました。これもひとえに県内の先生方のご理解とご協力のおかげとっております。ここに深く御礼申し上げます。引き続き、今度は4月の学生受入に向けて入試や校舎の整備を行って参ります。先生方にも是非興味を持っていただき、我々に対してご指導いただければ幸いです。

また、10月5日の週と19日の週に行いましたスキルアップセミナー「Back to the Campus Life 2020」に多くの先生方のご参加をいただき、本当にありがとうございました。昔ががんばっていた学生時代を少し思

い起こしていただき、新しいことのインプットや忘れていたことの再確認の重要性を再認識していただけると嬉しいな、と思っております。是非、これについても忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。どのような内容でも結構ですので、久保 (kubo-h@fmu.ac.jp) までメールをいただけますと幸いです。2021年4月の開設後も、県内の先生方と共に前進していきたいと考えております。

写真4は、足場が取れて外壁が見えるようになった福島駅前キャンパスにある新校舎です。北側の壁面となります。まだまだ建築途中ではありますが、着実に開設に向かって準備が進んでいます。



写真4：保健科学部の新しい校舎

～会長 「オンレコ」～

1 「第3回理事会」

第2回理事会同様に電磁的承認での開催、補助的にWeb会議を開催しました。協議事項の承認確認には、Webツールである伝助を使用しました。非接触型体温計や動画配信機器の購入、線量計の校正や充実、定款・諸規定集の発行等を決めました。非接触型体温計は、各地区協議会用に2個を配布しました。委員会や研究会での集まりでお使いください。

第4回理事会も、電磁的承認での開催、補助的にWeb会議を開催するようにします。

2 「事務所兼研修センターについて」

購入後は、リフォーム工事やハウスクリーニングを進めています。県技師会の看板も取り付けました。まだ必要な物品が全て揃ってはいませんが、徐々に揃えて行きます。



3 「Webexの法人有料版」

コセキ担当者と相談し進めています。使用可能になりましたら、各委員会・地区協議会・各分科会等で利用してください。

4 「TCRT2021」

TCRT2020は中止になりましたが、会計監査を行い締めたいと思います。そろそろ、来年度に向けて動きだそうと思います。

編集後記

2020年は日本も世界の国々も大変な年になってしまいました。もうすぐ2021年となりますが来年は少しでも穏やかに暮らせることを願っています。会員の皆様も健康に気を付けて年末年始をお過ごしください。

(大井)